

鹿屋 PS機構とオキス



ゴボウ畑で草取りに励む利用者とPS支援機構のスタッフら
 鹿屋市下高隈町

ひきこもり支援で連携

鹿屋市の一般社団法人パーソナルサービス（PS）支援機構は、地元企業のオキスと連携し、ひきこもりなどで就職が困難な人の支援を始めた。オキスは雇用を視野に利用者を受け入れ、職業訓練の場を提供、PS支援機構は送迎や就労相談をしながら利用者をサポートする。

段階踏み就職目指す

両者は4月23日に連携協定を結んだ。利用者の体調や特性に応じた作業量や労働時間を段階的に調節する中間的就労を取り入れ、PS支援機構のスタッフは同行し、一緒に作業するのが特長だ。

利用者は自分のペースで仕事になじめ、企業は時間がかかっても確実に人材を育成・確保できる。就労困難者の社会参画を促す地域貢献にもつながる。オキスの岡本孝志社長は「人手不足の中、地元

の大きな潜在能力を生かしたい。環境を整えれば十分戦力になる」と期待する。

現在、3人が週2日、1日約3時間の農作業に取り組み。28日は、小中学生の頃から不登校という10代女性2人が下高隈町のゴボウ畑で草取りに励んだ。運転免許がなく、接客も

苦手でアルバイトを諦めていたという女性（18）は「きついけど少し慣れてきた」と話した。PS支援機構によると、事業に興味を示す企業が複数あり、今後は1次産業を中心に連携企業を増やしたい考えだ。大倉一真代表（44）は「大隅だけでも、



連携協定を結んだオキスの岡本孝志社長（左）とPS支援機構の大倉一真代表
 鹿屋市下高隈町のオキス

仕事を持たずひきこもる人が約3500人いるとされる。こうした人が社会へ踏み出すためにもモデルケースとなれば」と力を込める。
 （成尾由理香）